

仮定法学習の一指針

城 戸 法 政

A Guideline for Learning the Subjunctive

Norimasa KIDO

仮定法はむずかしいといわれる。学習障害の要因は何かを突き止めることが目的。第一に、日本語文法における条件・仮定の範疇と英語の叙実法条件文、叙想法（仮定法）のそれとの比較。次に高校英語教科書における叙実法条件、叙想法の例文をピックアップ。その結果、叙実法の解説が不十分であるという難点もあるが、英文法の用語の不統一が最大の学習障害であるという結論。

* 日本人は仮定法になぜ弱いか

長年、気掛かりとなっている問題の一つは、仮定法の問題である。いろいろ工夫してきたが、なにかが学習の障害となっていて、消化不良のまま放置されているのが現状である。

そこで、要因はどこにあるか。仮定法とは何か。日本語文法における「仮定法」つまり条件・仮定とはいかなるものか。双方のジャンルにたいして、われわれの認識のズレはないか。いま一つは、教科書に学習障害要因はないか。この2つの面から問題解決の糸口を見い出したと思う。

* 日本語文法の条件・仮定とは？

「仮定法」を広辞林で引いてみると、英文法で接続法のこと、とある。つまり、「仮定」の定義はあっても、仮定法とは英文法上の用語であって、日本語文法の用語ではない。事実、『われわれはふつう「～したら」とか「～すれば」とかを「条件」の表現と言ったり、「仮定」の表現と言ったりしているが、これらをあまり厳密に区別はしていない』（国立国語研究所：日本語教育指導参考書5「日本語の文法（下）p66」）というのが実情である。

ところで、日本語の文法の条件・仮定とはいかなるものだろうか。「日本語の文法」国立国語研究所）の実際例を拾ってみよう。

- (1) ガスバーナーで細い鉄線を熱したとき、鉄線は赤く光り、さらに熱すると、しだいに色が変わっていく。

- (2) 電熱線に流れる電流の大きさを変えていくと、電熱線から出る光の色が変化していく。
- (3) 第一回の経済白書が発表された。
22年と比較すると、45年では鉱工業生産が36倍、農林水産等生産が36倍、農林水産等生産が2.3倍の水準に達している。
- (4) 生きていたらここで会おう。
- (5) もしここへ来たとすれば、あの人はきっとあたしを捜したことだろう。
- (6) あの時あなたがたのいらっしゃる海岸の方への道を降りて行ったら、恐らく違った今日の私を発見していたはずでございます。でも、幸が不幸か、私はそういたしませんでした。(以下省略)
- (7) 無限は一朝一夕に人びとの中に定着したのではなかったのであるが、しかもこれなしには近世的な天体運動の理論もなく、数学的自然学の形成もなく、恐らく微分積分学の形成もありえなかったであろう。
- (8) ユークリッド幾何学が正しい限り、ロバチェフスキの幾何学も正しい。...
ユークリッド幾何学が矛盾を含まないなら、ロバチェフスキの幾何学も矛盾を含まないというのである。
- (9) 今かりに何かの事情によって、ギリシャ人にも零を「数」として考えたくなる事情が起ったとしたら、彼らはどうしたであろうか。
- (10) 詩人でなくてどうして、地獄に生きていることができませんか。詩人というものは、周囲の生活が地獄的であればある程その輝きを発揮し、「バイオグラフィア・リテラリア」の著者によると、苦悩の中で歓喜の極点に達するのであります。

以上のように、日本語の条件・仮定の例文を英文法の範疇でみると、例文(1)～(3)は事実を述べる叙実法の条件文現在、接続詞もifではなく、whenを代用してもおかしくない。例文(4)叙実法条件文現在、例文(5)(6)(7)は反事実的条件文つまり叙想法過去完了(仮定法過去完了)である。例文(8)は叙実法条件文現在、(9)は叙想法過去。例文(10)の前者2つは叙実法条件現在、最後の「～よると」は条件・仮定の範疇外である。さらに『われわれはふつう「～したら」とか「～すれば」とかを「条件」の表現といたり「仮定」の表現といたりしているが、これらをあまり厳密に区別はしていない』(同上p66)

このような状況で、仮定・条件の定義が英語よりゆるやかであるところから、誤解を生み、日本人学習者にとって、いくらか仮定法学習の障害になっていることが言えそうである。

* 教科書における仮定法の実践

中学教科書における if は条件を表す接続詞として扱われ、この接続詞を含む文を条件文と

言っている。中学2年で接続詞 when に次いで、副詞節に含まれるifの例文が2～3紹介され、3年で本文中に2度扱われている（中学英語検定教科書「Total」）。また、3年で、副詞節を形成する接続詞 but, when について、取り上げている（「Horizon」, 東京図書）くらいである。中学の先生によると、ほんの紹介程度に扱われているのが実情のようである。従って、本格的な扱いは高校に任されているのが現状である。そのため、高校教科書をできるだけ当たって、どのような取扱い方をされているか、直説法条件文と仮定法の扱い方に焦点をあててみることにする。

前々から、文法用語について、数々の疑念を抱いてきた。その中でも、仮定法という用語である。英語には、indicative mood, subjunctive mood, imperative mood という3つの叙法があって、それぞれ、直説法、仮定法、命令法と言われている。この直説法が、間接話法に対する直接話法と混同されやすいし、まぎらわしいということは常々考えてきた。そこで、ここでは、indicative が事実を述べる叙法の意味で、直説法を「叙実法」、subjunctive は思想（願望、仮定）を述べることから、叙想法とする。

調査対象として、高校教科書12点の英I、英IIをあたった。

先ず、(1) 叙実法条件文現在および過去、(2) 叙想法条件文過去、(3) 叙想法条件文過去完了の3つのグループに分けてピックアップ、それも、本文、例文、練習問題など、学習者の目に触れるセンテンスをできるだけ拾い集めた。慎重を期したつもりであるが、見落としした例文もあると思われる。大まかな数とみてもらいたい。

	英 語 I			英 語 II		
	叙実法 現在・過去	叙想法 過 去	叙想法 過去完了	叙実法 現在・過去	叙想法 過 去	叙想法 過去完了
A	2 0	9	2	1 7	9	9
B	1 6	5	0	1 5	2 0	4
C	9	4	6	1 3	2 1	1 6
D	1 2	1 1	2	2 3	6	5
E	1 3	1 4	0	1 5	1 1	4
F	2 2	1	0	1 8	2 9	7
G	1 5	6	0	9	1 8	1 0
H	1 5	1	0	1 2	1 8	1 5
I	5	6	0	2 2	9	6
J	1 0	0	0	1 2	7	2
K	1 2	1 2	2	2 4	2 0	6
L	9	0	0	2 3	1 4	6
合計	1 5 8	6 9	1 2	2 0 3	1 8 2	8 7
平均	1 3	6	1	1 7	1 5	7

この表で挙げられる特徴を列記すると、

- 1) 英語 I で、叙実法条件文現在・過去から入り、叙想法過去の紹介。
- 2) 英語II で更に叙実法を復習しながら叙想法過去・過去完了と展開している。
- 3) 英語 I, II いずれも、叙実法条件文現在の実例が大多数で、叙実法条件文過去の例文はほんの数例であった。
- 4) 英語I, II いずれも叙実法の例文が叙想法のそれより多い。

叙想法条件文(仮定法)学習には、その前提として、叙実法条件文学習が当然必要である。高校教科書で扱ってない実例をあげて、類型化してみたい。

* 断言と蓋言

Indicative mode (叙実法) の文には、modalsと呼ばれる助動詞 (can, may, must, will, shall など) がよく用いられるが、modeそのものとの深い関係がわかる。そこで、叙実法の文で、助動詞を用いている文と用いてない文を比較してみる。

- 1) It is true. (それは本当だ)
- 2) It may be true. (それは本当かもしれない)

例文1) は、きっぱり言い切った文、断言である。例文2) は多分そうであろうと推量している。つまり、蓋然性の文。これを略称して、蓋言(ガイゲン)とする。

叙実法条件文にしろ、叙想法条件文にしろ、助動詞との関係は極めて深い。手始めに、叙実法条件文と断言、蓋言との関係を観察することにする。

叙実法条件文現在 : If + S + 現在形 (or 現在完了形), S + 現在形 (or 未来形)

実現可能な条件であり、単なる現在形、現在完了形で条件節が始まり、現在形か、未来形で帰結する。

(1) 帰結節が断言現在

If we burn fuels such as coal, oil and gas, it gives off various gases.

(石炭、石油、ガスのような燃料を燃やせば、種々のガスが発生する)

If I boils the (meat) juice, I kill the microbes.

(肉汁を沸騰させれば、ばい菌は死滅する)

One kind (of tears) cleans out the eye if it gets dirt.

(ゴミが目に入ると、(2種類の涙の)ひとつが掃除してくれる)

If both players are equal at 40-40, the score is called "deuce."

(得点がフォーティ・フォーティなら、スコアはジュースという)

If you tell the truth, people trust you.

(あなたが本当のことを言えば、人はあなたを信用する)

If you have a car but can't drive, the car is a white elephant.

(車があっても、運転できないのなら、車は無用の長物です)

If songs are great, they are handed down generation to generation.

(すばらしい歌は、代々歌い伝えられる)

If you see a lot of fireflies flying high, good weather is coming.

(ホタルがたくさん高く飛んでいるのが見えたら、よいお天気ですよ)

If you do not give them candy or cookies, they are believed to play on a trick on you.

(子供達に) キャンデーやクッキーをやらないと、いたずらすると
信じられている) (Halloween)

If I'm with a friend, we always end up talking about home or future plans.

(友達と一緒にになると、いつも終いには家のことか将来計画の話になる)

If I tell the truth, I don't really like him.

(実を言うと、ほんとうは彼のこと嫌いです)

I'm sorry if I've called at the wrong time.

(都合の悪い時に電話したのなら、ごめん)

If you have never seen or heard of E.T., you are, in a sense, very lucky.

(ETのことを見たとか、聞いたことがなければ、きみはある意味で、とても運が
いい人だ)

If you have always lived here, it is your home and you don't want to be anywhere
else.

(これまでずっとここに住んでいるんだったら、ここがあなたの故郷であ
り、他所にいきたいは思わないものだ)

このタイプの文は、一定不変の恒常現象、格言、慣例、慣習、現在の事実などを表す。

(2) 帰結節に蓋言現在

If the water is dirty, salmon will not return.

(水が汚れていれば、鮭はもどってこない)

If we are lucky, we will be able to see a giant panda bathing in the sun on a tree.

(運がよければ、ジャイアント・パンダが木の上で日光浴している姿を見る
ことができます)

If you are to win the game, you must start training now.

(競技に勝つつもりなら、今から練習を開始しなくてははいけません)

You can mime what other people do, if you watch them carefully.

(人のすることを注意深く観察すれば、真似できます)

We can prevent AIDS if we understand the disease and know how to protect ourselves.

(もし、エイズという病気を知り、予防法を知っていれば、防止できる)

* いずれも、現実の実現可能な条件であり、帰結も同様である。

If you want to enter the contest, you can buy a ticket for two dollars.

(コンクールに入場したいのなら、2ドルでチケットを買いなさい)

* この場合のcanは軽い命令の意味になる。

If someone asks you, "What do you think about this?", you can always ask a question.

(「このことについて、あなたはどのように思いますか」とだれかがあたなに

尋ねたなら、いつでも質問してもいいですよ。(許可))

(3) 帰結節に命令文

If your friends drop litter, try to persuade them to pick it up.

(友達がゴミを落としたら、拾うように説得してみなさい)

If you ever go to Istanbul, go to Ayasofya.

(いつかイスタンブールに行くことがあれば、アヤソフィヤを訪ねなさい)

If you want to master the art of relaxation, study the cat.

(くつろぎかたのコツを習得したいなら、猫を研究しなさい)

If you live a mile from school, try walking instead of taking the bus.

(学校から1マイルのところに住んでいるのなら、バスを利用する代わりに歩くように心掛けなさい)

If you should miss the bus, take a taxi.

(万一そのバスに乗り遅れたら、タクシーにいなさい)

If you have not heard an echo, call out in the mountains.

(やまびこを聞いたことがないなら、山のなかで、大きい声を出してみなさい)

* 条件文が現在完了の場合、条件文現在と同じ部類に属する。

(4) 条件節蓋言+帰結節蓋言

I'll cancel your father's debts if I can marry you, Bella.

(ベラ、きみと結婚できれば、お父さんの借金は帳消しにしてやるよ)

If one of you can do that, all my property will be his.

(きみたちのうちだれか、それができたら、わたしの全財産はその人のものだ)

If you won't hear me, I'll just have to tell the authorities!

(あなたがわたしの言うことを聞き入れるつもりがなければ、当局に報告しなくてはなりません)

I'll be very happy if I can be your E-mail friend.

(あなたのEメールフレンドになれば、幸いです)

If you can completely relax the muscles of the eyes, you can forget all your troubles.

(目の筋肉を完全に弛緩させることができれば、あなたは悩みをすべて忘れ去ることができます)

* 条件節のwillは、主語の意志を、canは能力、可能性を表す。

If this rate continues there may be only one or two generations left before forests cease to exist.

(この割合で[破壊が] 続くなれば、わずか1、2世代で森林は消滅するかもしれない)

これまで、叙実法条件文現在を、いくつかのタイプに分けて、挙げてきたが、叙実法条件文過去にも、触れておきたい。

* 叙実法条件文過去

Everyone knew that meat went bad if it was left in the open air.

(食用の肉を外気中に放置すれば、腐敗することはだれも知っていた)

If you saw a person busily reading the pages of a newspaper before class, you knew it was her turn to give the presentation that day.

(授業の前に忙しそうに新聞のページをめくって読んでいる人がいたら、その日は、彼女の発表する番だったのがわかった)

いずれも、叙想法ではなく、過去の事実を表す。主文節のknewが過去形のため、従属節の動詞はすべて過去形になっている。時制の一致の法則である。

* 叙想法条件文過去 (仮定法過去)

叙実法条件文現在および現在完了は、現在の事実、叙実法過去は過去の事実を表すことは前節で述べた。では、叙想法条件文過去 (仮定法過去) はどうであろうか。

A. If I turn you loose, will you run?

(もし、わたしがおまえを解き放したら、逃げるかい)

B. If I knew her phone number, I would ask her for a date.

(もし、彼女の電話番号を知っていたら、デートを申し込むんだが)

C. If he were rich, he could buy a ring for his wife.

(もし、彼が金持ちなら、奥さんに指輪を買ってあげられるのだが)

いずれの文も帰結には蓋言の助動詞が使われている。Aは、条件節が現在なので、帰結の助動詞は現在形 will が使われている。Bは条件節が過去形なので、帰結の助動詞も過去形の would である。注意しなくてはならないのは、Aは、現在の事実を表しているが、Bは過去の事実ではない。現在の事実(女の電話番号を知らない)の反対の想定をしているし、Cは条件節で were であり、was ではない。つまり、過去の事実とは考えられない。つまり、Aは叙実法条件文現在、B、Cは叙想法条件文過去(仮定法過去)である。

If I had enough money, I would buy a computer.

(十分お金があれば、コンピューターを買うんだか)

If your feet were smaller, you could borrow my shoes.

(もし、きみの足がもっと小さかったら、わたしの靴を借りれるんだが)

If it were not for club activities, my school life might be very dull.

(クラブ活動がなければ、わたしの学校生活はとてもつまらないかもしれない)

If the greenhouse effect did not exist at all, the earth would be frozen.

(温室効果が存在しなかったら、地球は凍りついているだろう)

If he lost this job, he might not get another.

(この仕事を失えば、次の仕事は見つからないかもしれない)

条件節が過去であれば、帰結の助動詞は would (could, might, should) である。would が出てきたら、条件節も過去で、叙想法(仮定法)だと想定できる。ちなみに、高校教科書のなかで、帰結の助動詞は would が圧倒的多数であったことを付記したい。

* as if (= as though) について

as if のあとの過去形、過去完了形も叙想法条件文の過去・過去完了である。

1) He walks as if he is drunk.

2) He walks as if he were drunk.

例文1) は条件節が現在である。つまり、叙実法現在(事実を述べる)であり、「歩き方からしてどうも彼は酔っているようだ」と可能性を強調している。例文2) は「まるで酔っ払いのような歩き方だ」と現在の事実と反する非現実性を強調している。

She acts as if she were the most important person in the world.

(彼女はこの世に自分より偉い人はいないかのごとく振る舞う)

Sometimes Tom behaves as if he were a child.

(ときおり、トムはまるでこどもみたいな行動をとる)

Bob looked at me as if I were a stranger.

(ボブはまるで見知らぬ人でも見るかのように私を見た)

Nancy looks as if she had seen a ghost.

(ナンシーはまるでお化けでも見たような顔をしている)

Lucy remained calm as if nothing had happened to her.

(ルーシーは自分の身になにごともなかったかのように平静そのものだった)

* as if(=as though) ...は、叙想法なので、主節の動詞 (acts, behaves, looked, looks, remained) などの時制が変わっても、as if ...の中の叙想法の時制には変化がない。

次の例文は、拘禁状態にある Anne Frank の日記の一節である。

I feel as if I am going to burst, and I know that it would be better if I cried;
but I cannot.

(私は、いまにも爆発しそうな気がするんです。ですから、大きな声を出して

叫んだら、すっきりするだろうと分かっているんですが、できないんです)

この as if のあとの I am going to burst は叙実法で、近い未来を予測して、可能性を強調している。ところが、it would be better if I cried は、満たされない願望を表して、現在の事実
に反する仮定で、叙想法過去の例である。

* 条件節なしの叙想法過去

if 条件節がなくとも、帰結節に would (could) が使われていたら、たいていは、叙想法だと考えてよい。ただし、過去の主張および過去の習慣の would に注意。

What would you do in my position?

(あなたがわたしの立場だったら、どうしますか)

Why, it's quite easy! A child could do it.

(おや、ずいぶん簡単だね。子供だってできるよ)

Any considerate person would give an old lady assistance.

(思いやりのある人ならだれだって、老婦人に援助の手をさしのべるだろう)

* 叙想法条件文過去完了：過去の事実反することを現在の立場から仮定する場合

If I had known about her illness, I would have visited her in the hospital.

(彼女の病気を知っていたら、病院に彼女を見舞っただろうに)

If he had been at the meeting, he would have told them the truth.

(彼がその会合にでていたら、かれらに真実を語ったろうに)

If you had arrived earlier, you could have seen the parade.

(もう少し早く着いていたら、パレードを見ることができたのに)

*** 条件節なしの叙想法過去完了**

Bill risked his life to save the child---he might have died.

(ビルは命がけでその子を助けた...ひよっとしたら、死んでいたかもしれない)

I would have never succeeded without your help. (* without~が条件節の代用)

(あなたの助けがなければ、わたしは成功しなかったでしょう)

Better communication between the two countries could have prevented the war from breaking out.

(両国間にもっと意志の疎通があったら、戦争は回避できただろうに)

*** as if + 過去完了**

Nancy looks as if she had seen a ghost.

(ナンシーはまるでお化けでも見たような顔をしている)

Lucy remained calm as if nothing had happened to her.

(ルーシーは自分の身の上になにごともなかったかのように平静を保った)

これまで、叙実法現在(過去)、叙想法過去、叙想法過去完了の3項目の例文を挙げた。もっとも明らかにしたかったのは、叙実法が現在・未来の事実在即した条件・結果であり、一定不変の恒常現象、慣例、現在(過去)の事実などの表現に幅広く用いられていること。

それに対して、叙想法は現在の事実と反する立場にあることである。12点の教科書分析から、ほとんどの教科書では、叙実法現在の例文は思いのほか多く、学習者の理解に十分な配慮がなされていることが推察できる。だが、適切な解説と練習問題があれば、叙想法(仮定法)に対するいちだんの学習効果がえられるのではなかろうか。

しかしながら、高校教科書を調べるにつれて、学習者を混乱させる要因がほかにあると確信を抱くようになった。それは、われわれ英語教育界の文法用語の不統一である。A社のEnglish(1)のまとめの例を挙げる。

仮定法現在

話し手にとって不確かなこと

- 1) If you are tired, we'll stop.
- 2) If it is fine on the beach, the children will be trying to find them.
- 3) If the weather is nice, the children will try to find them.
- 4) If he does the job, we'll be delighted.

- 5) If anyone in the family takes a lunch to school or work, there will probably be egg salad sandwiches for a few days.
- 6) If Jim has really lost his job, you can say to someone else, "Poor Jim, I feel sorry for him."

仮定法過去、および仮定法過去完了については、従来の法則のとおりである。ここで仮定法現在と規定しているのは、まぎれもなく、叙実法である。現在・未来の事実在即した条件とその結果、つまり未来の事実の予見である。ここまで割り切った判断をすることには賛否両論であろう。確かに、現在・未来の事実在即した条件・結果をしめす叙実法条件文現在と仮定法の区別には、頭を悩ましてきた。高校までの英語学習としては、このような概念規定で大概、間に合うかのしれない。ところが、B社のEnglish Course IIの本文に次の文がある。

It is important that he tell the teacher what he thinks.

さらに、POINT TO STUDYにつきのように解説がつく。

仮定法現在

- a. It is important that he tell the teacher what he thinks.
- cf. It is important that he should tell the teacher what he thinks.
- b. It is necessary that Mike be chosen for the relay team.
- c. I insisted that she come with me.
- d. We suggested that he stop working and take a rest.

このように従来の取り決めとの関連はどのように解決されるのだろうか。A社は従来の「仮定法現在」については、なんら言及していない。数々の矛盾が噴き出し、混乱を引き起こしているのは、指導する立場の側である。これまでの用例のように、より高度の英語を目的とする学者は別として、実用英語で十分な高校までの英語では、直説法、仮定法では、かえって混乱を招く。事実在即した条件文は、叙実法の文、事実を離れた仮設をたてる文は叙想法の文の区別で十分ではないか。

直説法現在と仮定法の用法を単に「条件文」とまとめた Betty Schramper Azarの提言もある。(Betty S Azar: Understanding and Using English Grammar, second edition)

また、旧来の「仮定法現在」は文意から第二命令法にすべしという提案もある。

* ともに

確かに、旧弊にとらわれず、学習者により分かりやすい指針を確立しなくてはならない。今度の調査で、わかったことは、どの教科書も、叙想法（仮定法）を念頭に、叙実法条件文現在の用例をふんだんに取り入れてあった。それまではよかったが、それに対する懇切な解説・練習問題を加えてほしかった。

たとえば、

- 1) 条件文が現在で、帰結文は断言なら、現在の事実、一般的定理、慣例などを表す。

If we burn fuels such as coal, oil and gas, it gives off various gases.

If you tell the truth, people trust you.

If you are eighteen, you're legally old enough to do anything you want.

- 2) 条件文が現在完了の場合、この文は叙想法（仮定法）ではない。

If you have always lived here, it is your home and you don't want to be anywhere else.

- 3) 帰結文が断言過去の場合、この文は過去の事実を表す

A publishing company agreed to publish the book if Beatrix drew colored pictures.

- 4) 条件文の主語が、it, I であるのに、動詞がwereである場合、過去の事実

でなく、現在の事実の反対で、叙想法（仮定法）である。

If I were you, I would not buy it.

If it were not for the sun, all living things would die.

- 5) 帰結文にwouldが出てきたら、条件文も過去、つまり、叙想法（仮定法）である。

If people knew the truth about sugar, they would not eat too much sugar.

目的は、学習者が叙想法（仮定法）を理解するにあたって、障害となっているのは何か、要因を突き止め、そして、よりよい学習方法を探索し、学習者の理解を助けることにある。日本語文法の条件・仮定の定義と英語のその間にはかなりの隔たりを感じた。そこには多少の障害をつくりだしているかもしれないが、主因となっているのは、定義の不統一であり、用語の不統一である。障害となっているのは、教える側の混乱である。要は事実にもった叙実法条件と事実を離れた叙想法条件の問題である。願わくば、現場教師が学習者を理解させるのに、納得できる文法用語の早期確立を望みたい。

国際語として、コミュニケーションの手段としての英語の需要はますます増大している。意思の疎通をはかるためには、叙想法（仮定法）の重要性も分かるが、叙実法条件文の学習にも焦点を当ててもらいたい。教科書調査をやってみて、この条件文の習熟によって、より豊かな表現が可能となり、その重要性は軽視できないというのが実感である。